

「教育のユニバーサルデザインに向けて」

伊丹市立笹原小学校
主幹教諭 林 美幸

はじめに

多様な子どもがいる中で、一人一人の自尊感情を高め、生かしていくには、ユニバーサルデザインの視点を持って教育を進めていく必要があると考える。

誰もが参加しやすい学級、どの子どもも落ち着ける学級経営、どの子どもにもわかりやすい授業づくりを目指した取組を進めてきた。

本校校内にはユニバーサルデザイン推進委員会も設置され、全学級でユニバーサルデザイン化を進めている。

子どもたちを指導する中で、実際に見えてきた子どもの困り感を軽減するために、以下のような取組を行った。

1 取組の内容・方法

(1) 教室環境のユニバーサルデザイン化

- ・学習道具などの整理が苦手な児童への対応

「マイボックス」

100円均一ショップで販売されているプラスチック製のボックスを児童に一つずつ与えて、専科授業の教科書やファイルなどを分別して保管させる。

写真「マイボックス」

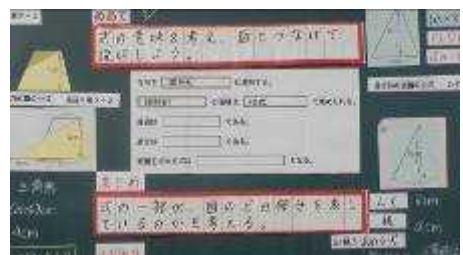


- ・書くことが苦手な児童への対応

「マス目入りホワイトボード」

市販されている紙製のマス目入りホワイトボード。紙製なので、児童の使用しているノートのマス目の数に合わせて切り取り、黒板や壁に掲示して、書くときの見本とさせる。

写真「マス目入りホワイトボード」



- ・学習の流れがつかみにくい児童への対応

「学習の流れカード」

学習の流れを授業の最初に提示して、聞いて理解するのが困難な児童や集中して聞きにくい児童に視覚的にとらえさせる。

写真「学習の流れカード」



(2) 授業のユニバーサルデザイン化

ユニバーサルデザインを重視した授業づくりでの留意点

- ・焦点化・・・授業のねらいや活動を絞る

- ・視覚化・・・視覚的な理解を重視した授業にする
- ・共有化・・・一人の考えのよさが他の子どもたちに分かち伝わるようにする
- ・教材のしかけ・・・教師が教えたことを子どもたちの学びたいことに転化する
- ・ファシリテーション力・・・多様性のある学び合いを支える教師の対応力

ユニバーサルデザインを重視した授業展開例 6年社会科「長篠の戦い」

学習活動	指導上の留意点
<p>1. 前時の復習をして、本時のめあてを確認する。</p> <p>2. 長篠の戦いの屏風絵から戦い方の違いを見つけて発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武田軍より織田・徳川軍の方が人数が多い。 ・武田軍は騎馬隊、織田・徳川軍は鉄砲隊。 <p>3. どちらの軍が勝ったのかを予想し、理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数が多いので、織田・徳川軍が勝った。 <ul style="list-style-type: none"> ・鉄砲は撃つまでに時間がかかるので、武田軍が勝った。 <p>4. 長篠の戦いの動画を視聴し、メモやキーワードをもとに、長篠の戦いについてまとめる。</p> <p>キーワード 長篠の戦い・織田信長・鉄砲 新しい戦い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長篠の戦いでは、織田信長が大量の鉄砲を柵越しに休み無く撃ち続けるという新しい戦い方で勝利を収めた。この勝利は天下統一に向けての大きな一歩となった。 <p>5. 次時の学習について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・武田軍の強さを取り上げるにより、織田・徳川軍の戦い方に関心を持たせる。 <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>戦い方の違いを見つけたり、工夫を考えたりしよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・資料集はどちらの軍が勝ったかが予め書いてあるので使用せず、教科書の屏風絵を使用する。 ・違いがわかるように対比してノートに書かせたり板書したりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄砲の問題点「撃つまでに時間がかかること」を示すことで、戦い方の工夫に気付かせる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・3000丁の鉄砲を休み無く撃つために3隊に分けて撃ったこと、馬防ぎの柵、川の利用、挟み撃ちなどが勝因であったことをおさえる。 ・イメージをもたせるために動画を利用する。 ・まとめを書くために、メモをしながら視聴させる。 ・まとめやすいようにキーワードを提示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・織田信長が天下統一に向けてどのようなことを行ったかについて調べていくことを伝える。

伊丹市教職員資料「みんなの教室 みんなの授業」「みんなの教室 みんなの授業2」

執筆原稿より抜粋

具体的な支援方法

- (1) 視覚的な支援
 - ① 絵や写真で表示する。
 - ② 板書で指示する。
 - ③ 実演する。
 - ④ 実物や手本を見せる。

- (2) 口頭による支援
 - ① ゆっくり短い言葉で、具体的に。
 - ② 語尾に重要な情報をもってくる。
 - ③ 一度に出す指示や発問は一つに。

- (3) 机間指導
 - ① 個別の声かけ（確認・励まし・賞賛）
 - ② 個別の支援（一緒に活動・制作）

- (4) 学習に集中できない子への対応
 - 1 動く場面を意図的に作る。（例）全員起立。○○ページまで読んだら座る。
 - 2 ノートに書く作業を入れる。
 - 3 ペアやグループでの活動を入れる。
 - 4 気になる子にはほほえんだり、背中を触ったりする。

- (5) 片付けが苦手な子への対応
 - ① 使用する物だけ出させる。他の物はしまわせる。
 - ② 机上のモデルを示す。
 - * 図工や習字の時は、机を隣と離して一人机にすると両側があいて作業しやすい。
 - 絵の具での色塗りは立って行うのも一つの方法である。机の上には画用紙のみ、椅子の上にパレット・絵の具・水入れなどを置かせる。

- (6) 音読が苦手な子への対応
 - ① 文節や句読点を意識して範読して真似をさせる。
 - ② 音読方法の工夫 変化のある繰り返して飽きさせずに何度も音読させる。
一文交代読み・列読み・男女別読み・役割読み・ペア読み・グループ読み など
 - ③ ほめて成功体験を積ませる。

- (7) 書くことが苦手な子への対応
 - 1 ノートに赤鉛筆で薄く書いてやり、なぞらせる。
 - 2 漢字を分解して覚えさせる。（例）さんずいに、ムとロで、治
 - 3 作文などで書き出しを与える。
 - 4 モデル作文を与えて真似させる。

- (8) 時計が苦手な子への対応
 - ① 短針だけ時計盤に書いて学習する。 ○時
 - ② 長針だけ時計盤に書いて学習する。 一回りで60分。数字の間が5分。
 - ③ 短針と長針を組み合わせて学習する。

2 取組の成果

(1) 教室環境のユニバーサルデザイン化

- 「マイボックス」の使用で、児童は必要な道具をすぐに取り出すことが可能となり、授業への準備がスムーズにできるようになり、忘れ物が減った。
- 「マス目入りホワイトボード」の使用で、児童はノートの中のどの部分に何を書けばよいかわかりやすくなり、ノート指導に効果的であった。
- 「学習の流れカード」を示すことで見通しをもって学習に臨むことができた。

(2) 授業のユニバーサルデザイン化

- 屏風絵、戦い方を対比した表、動画の視聴など、視覚的な支援を行うことにより、戦い方の工夫に気付きやすくなった。
- また、キーワードを設定して、学習のまとめを書かせたところ、どの子も容易に書くことができた。

写真「児童のノート」



3 課題及び今後の取組の方向

- 日本授業UD学会では、三つの環境のユニバーサルデザイン化を提唱している。三つの環境とは「教室環境」「授業環境」「人的環境」である。

「人的環境」のユニバーサルデザイン化とは温かさのある環境、認めあい、支えあいなどの「あい」のある環境のことである。これは支援を必要とする子どもの周囲にアプローチする学級づくりのことでもある。

この「人的環境」も含めた三つの環境がユニバーサルデザイン化されてこそ、児童の自己肯定感や自己有用感、ひいては集団肯定感が高まると思われる。

今後は、「人的環境」のユニバーサルデザイン化も重視して、教育のユニバーサルデザインを目指していきたい。